

- ・本資料は、当社の経営方針等に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。
- ・本資料で使用するデータおよび表現等の欠落・誤謬等につきましてはその責を負いかねますのでご了承ください。
- ・本資料に記載された意見や予測等は資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し又は約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。

2019年3月期 決算説明会資料

取締役社長
新芝 宏之

2019年5月17日

岡三証券グループ 

目次

1

2019年3月期の業績について

2

グループ経営戦略

3

参考 岡三証券グループの概要

1

2019年3月期の業績について

2

グループ経営戦略

3

参考 岡三証券グループの概要

2019年3月期 決算のポイント

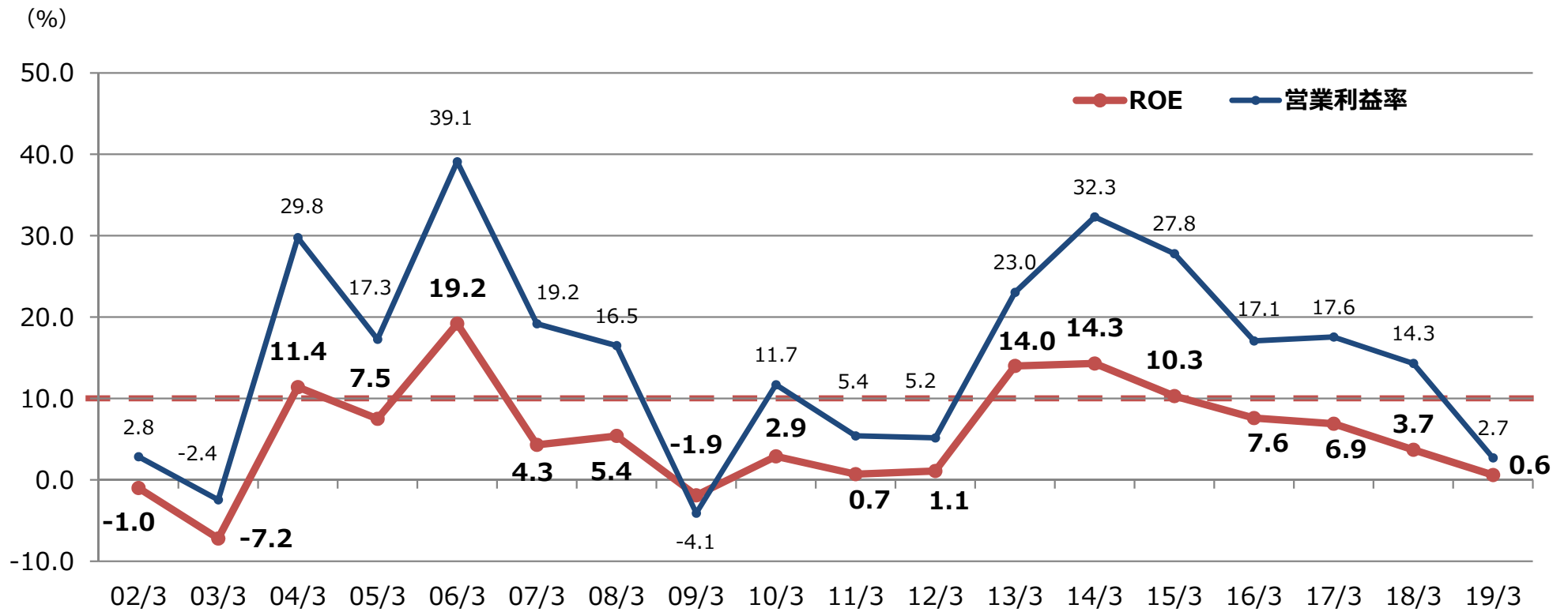
(単位:百万円)

	2018年3月期	2019年3月期	前年比
純営業収益	80,758	66,804	-17.3%
営業利益	11,720	1,840	-84.3%
経常利益	12,771	2,901	-77.3%
親会社帰属当期純利益	5,825	853	-85.4%
純資産	180,048	175,183	-2.7%
ROE	3.7%	0.6%	-3.1p
1株当たり純資産	791円46銭	761円53銭	-29円93銭

ROEの推移

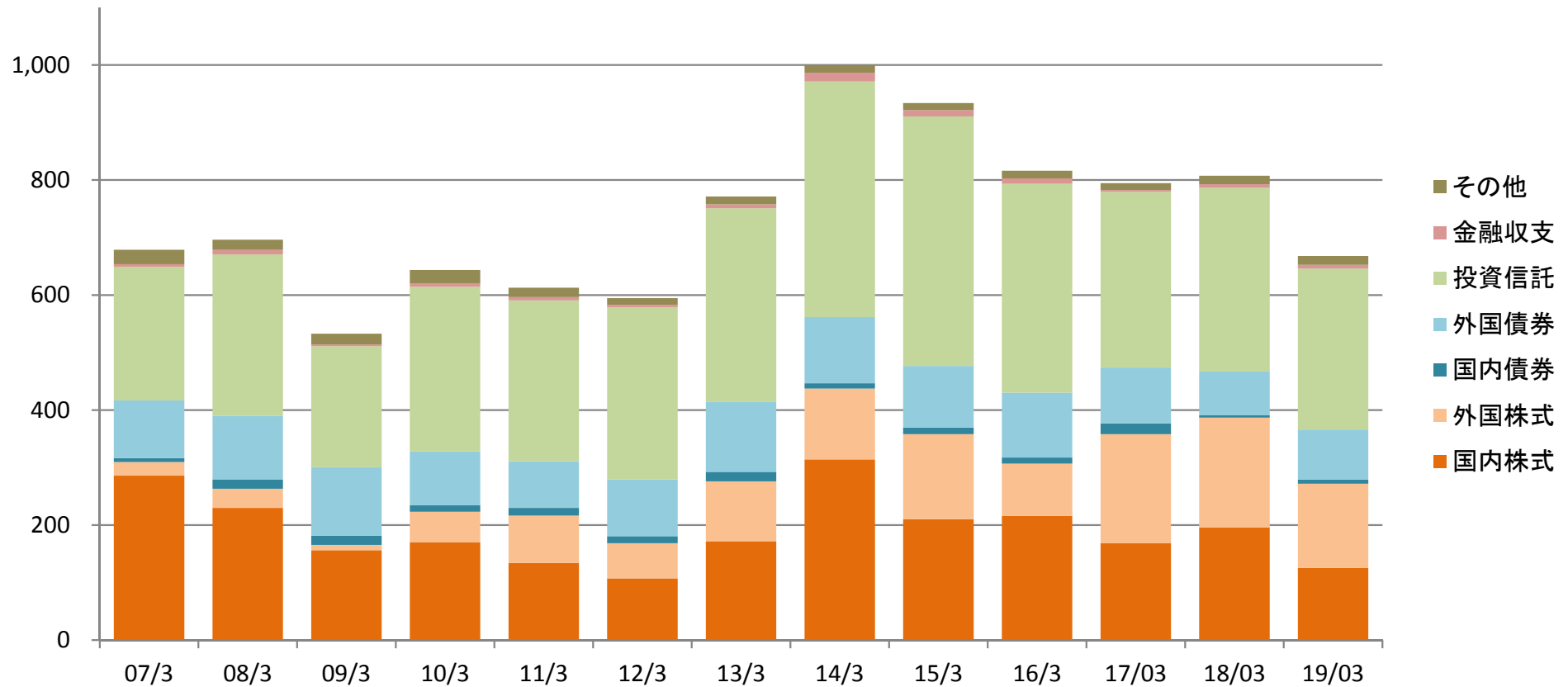
✓ 連結ROEは0.6%に低下

(目標)
連結ROE長期安定的に10%

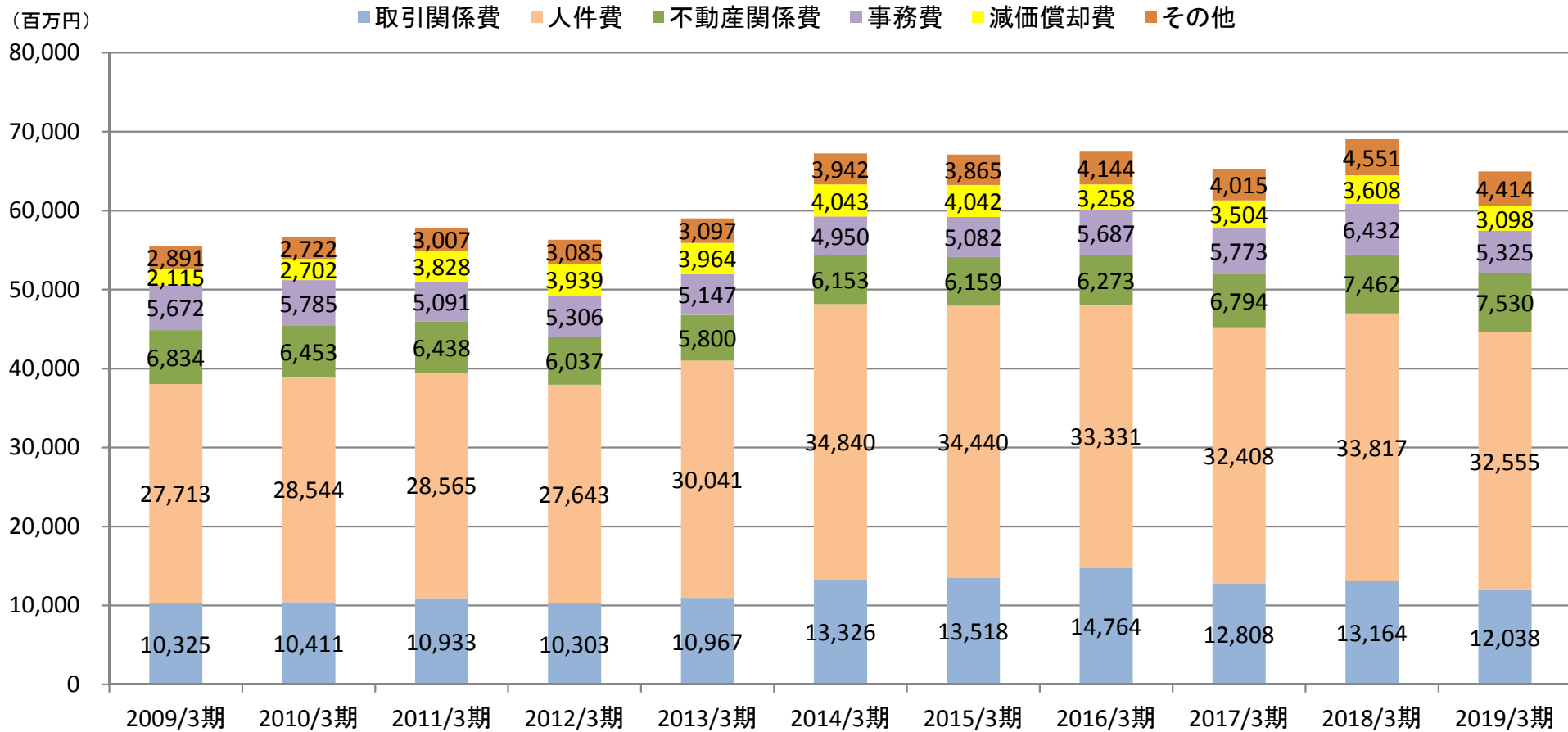


商品構成の推移 (連結、純営業収益ベース)

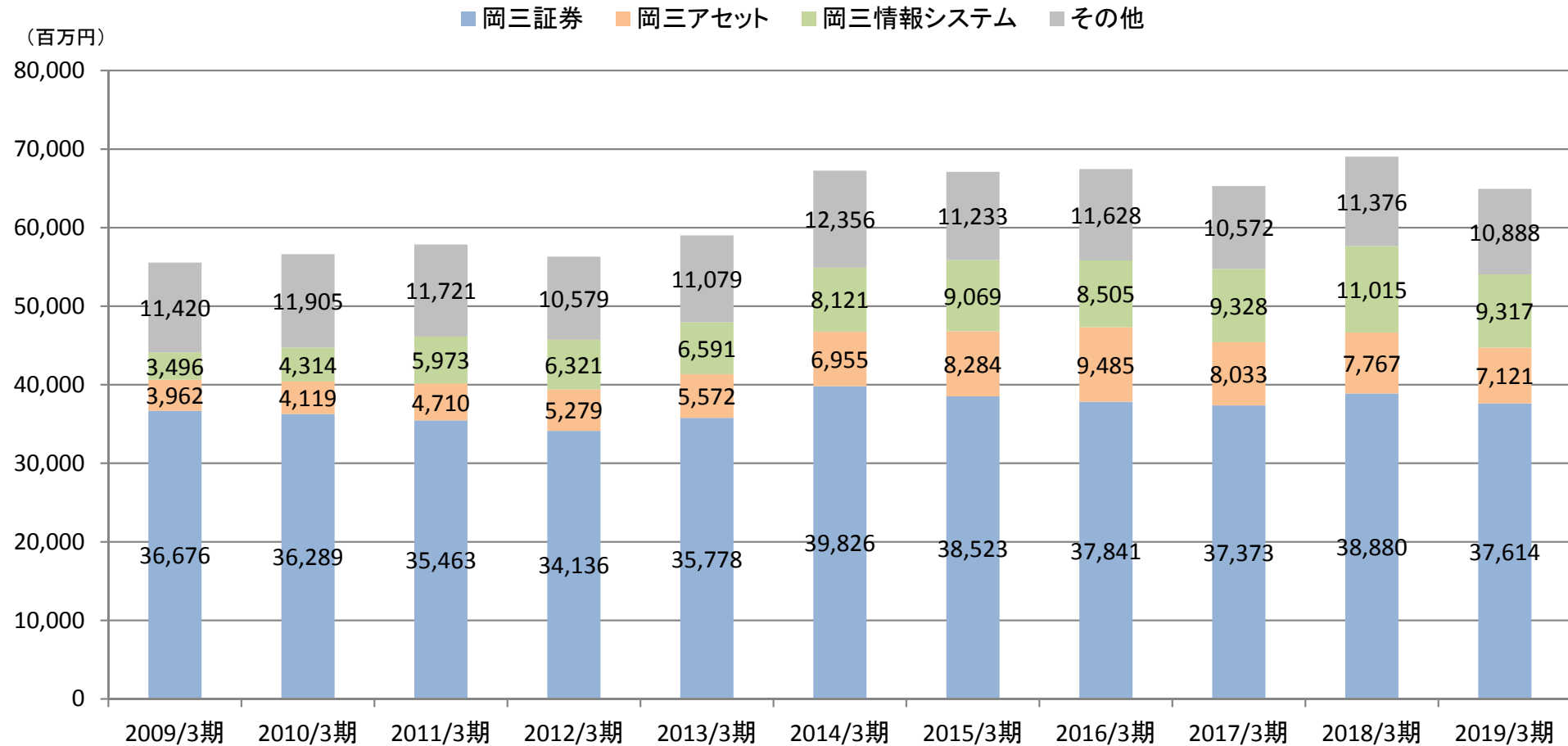
(億円)



販売費・一般管理費の推移①

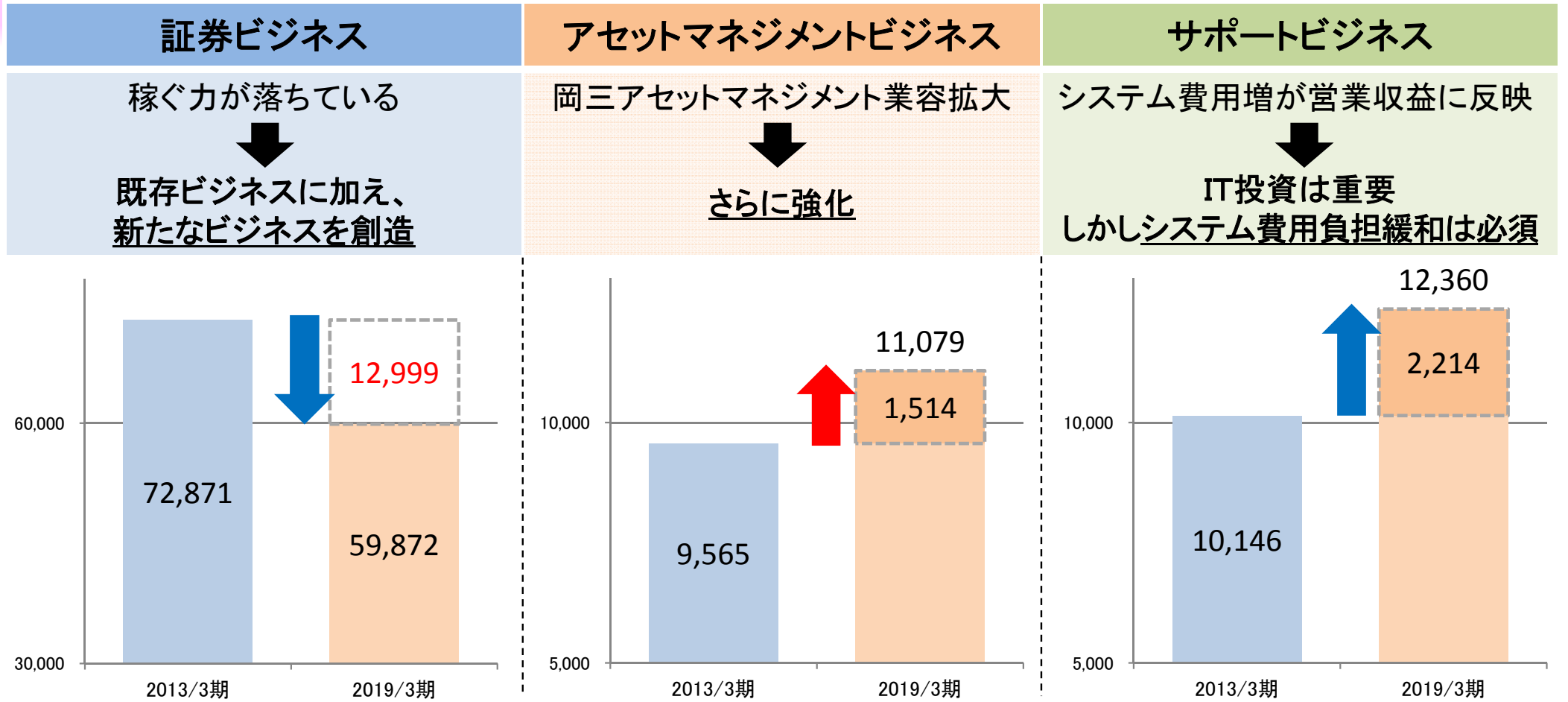


販売費・一般管理費の推移②



※各社数値は連結調整後の数値。

セグメント別営業収益から見える課題



※各セグメント収益は連結調整前の数値。単位: 百万円。

1

2019年3月期の業績について

2

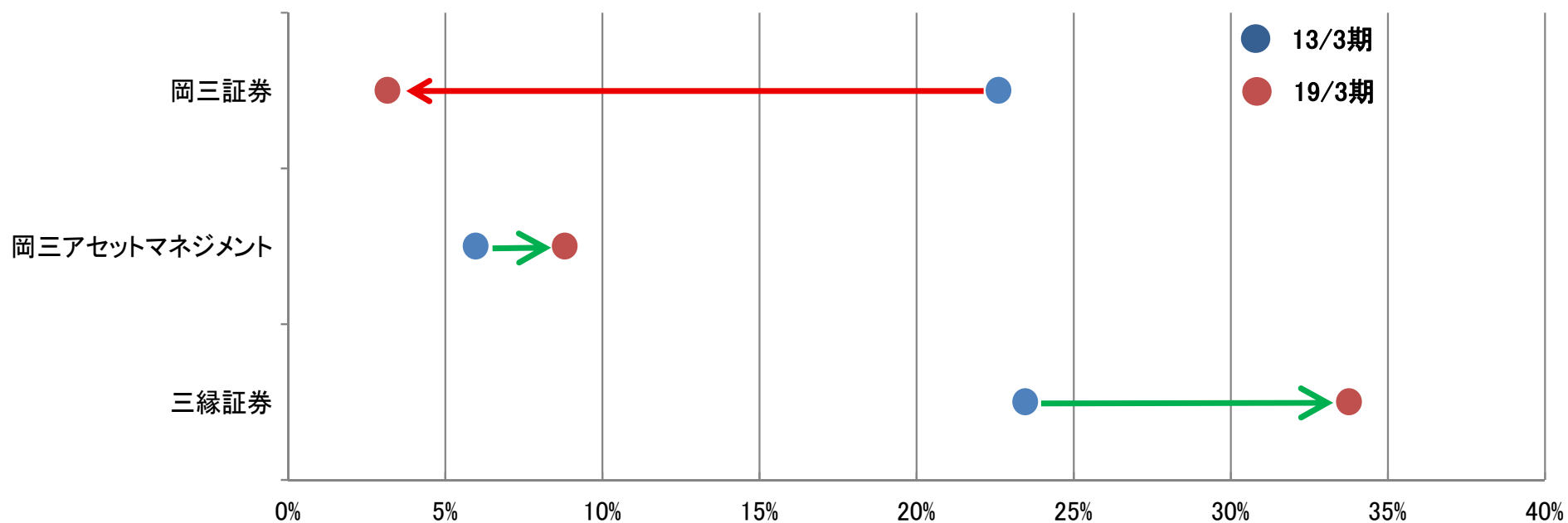
グループ経営戦略

3

参考 岡三証券グループの概要

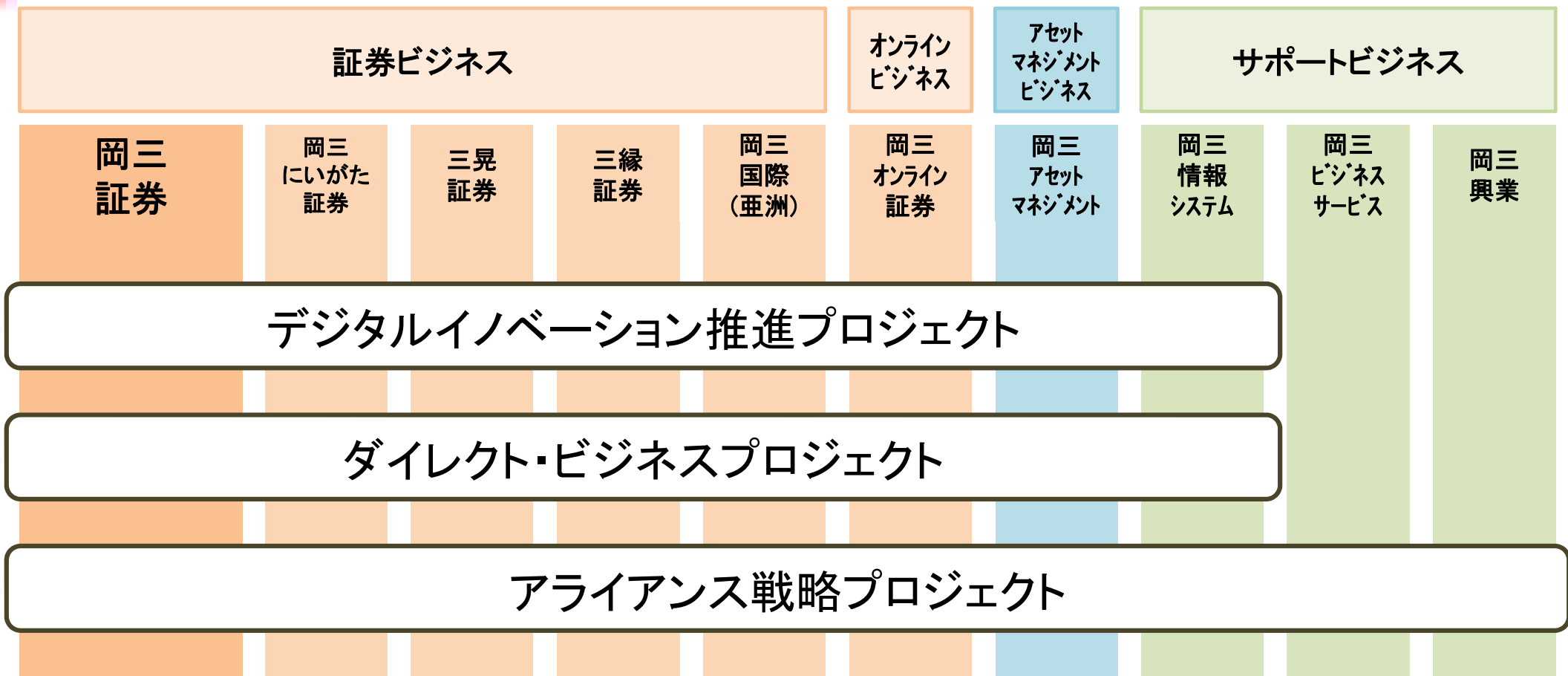
(昨年)各ビジネスユニットの強化

営業利益率の変化

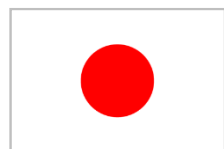


※各事業会社の営業利益率は連結調整前の数値ベース

(昨年)グループ全体の強化(グループ内外連携)



日米の比較



①	2,200万円	VS	6,300万円
②	1,800兆円	VS	8,800兆円
③	18.6%	VS	46.2%

日米金融資産の比較①



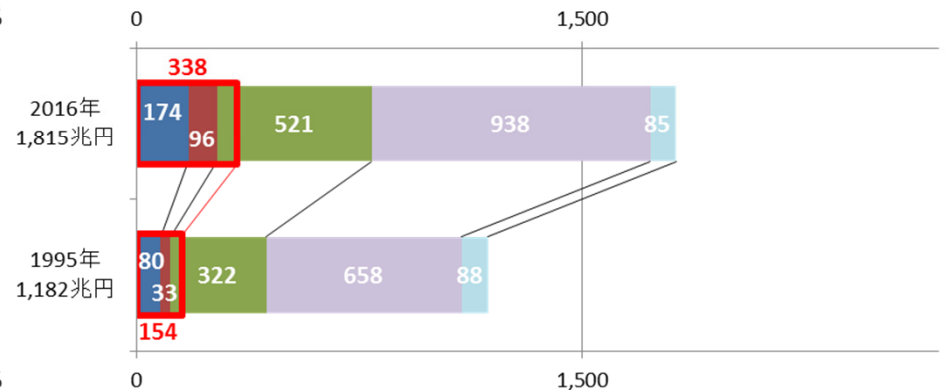
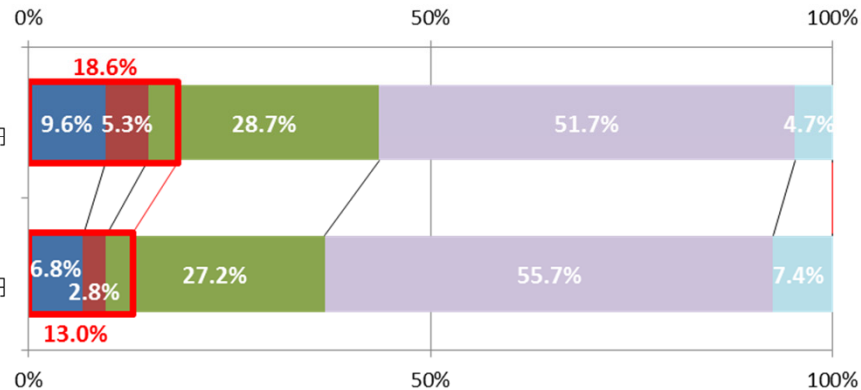
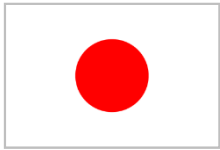
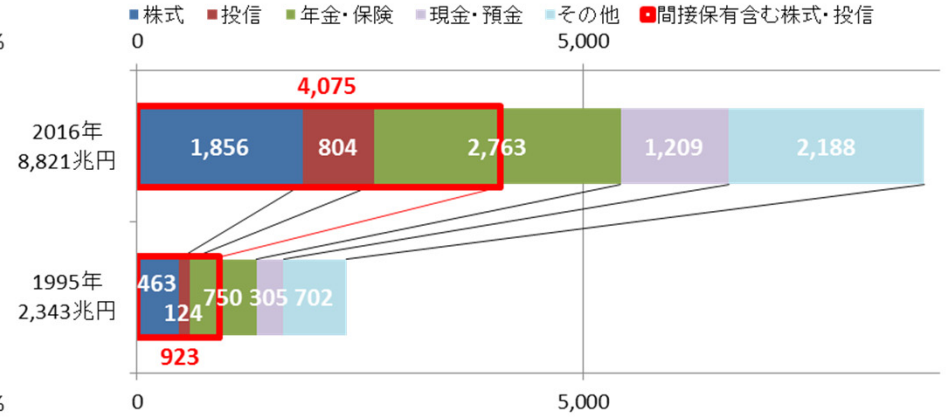
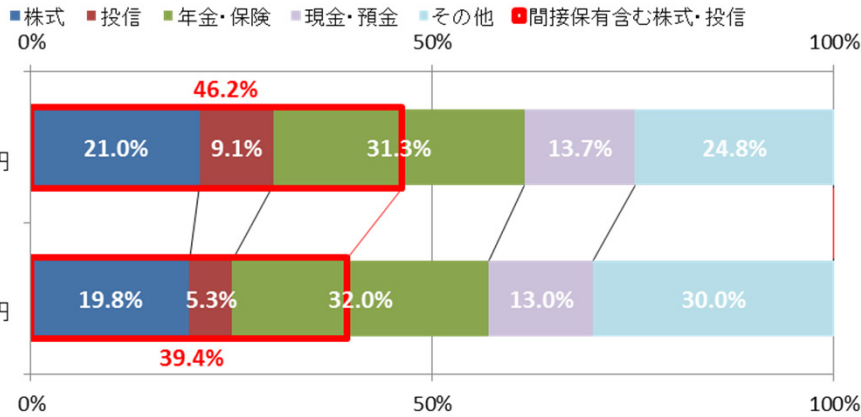
①	1世帯平均金融資産	2,200万円 (60～69歳)	6,300万円 (55～64歳)	(注1)
②	全世帯合計金融資産 (個人金融資産)	1,800兆円	8,800兆円	(注1)
③	個人金融資産における 株式・投信の占める割合	18.6%	46.2%	(注2)

④	1世帯平均の株式・投信保有額 (①×③)	約400万円	約2,900万円	7.3倍
---	-------------------------	--------	----------	-------------

(注1) 数値は平均値。(注2) 年金・保険による間接保有含む。

日米金融資産の比較②

日米の家計金融資産の構成比較(1995年:2016年比較)

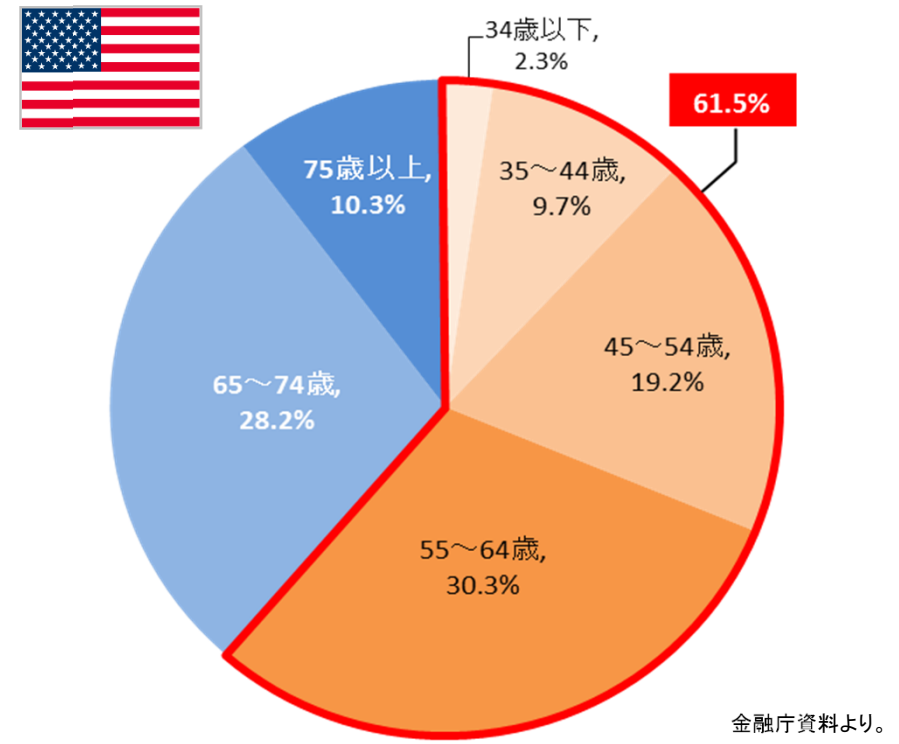
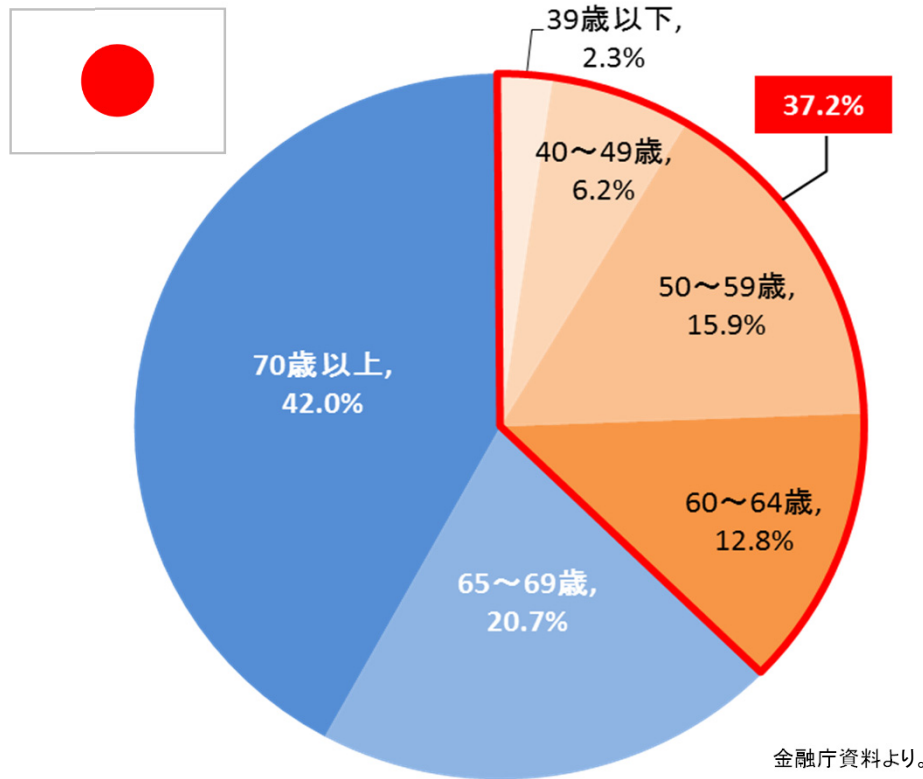


(注1) □の部分には間接保有を含む株式・投資信託投資割合。(注2)右の為替レートを使用(1995年末1ドル=102.9円、2016年末1ドル=116.9円)。(注3)金額はパーセンテージを元に計算、単位:兆円。金融庁資料より、岡三証券作成。

日米金融資産の比較③

✓ 資産形成の重要性が高まり、日本でも64歳以下の株・債券・投信保有割合が徐々に増加していく

日米における世帯主の年齢別株式・債券・投資信託の資産保有割合比較



証券ビジネスの未来像

- ✓ 今後、資産運用の重要性がより高まる
- ✓ 日本でも資産形成層を中心に貯蓄から投資への流れ
- ✓ 投信関連の運用資産が増加
- ✓ 日米の比較から日本の株・投信残高は7倍～12倍

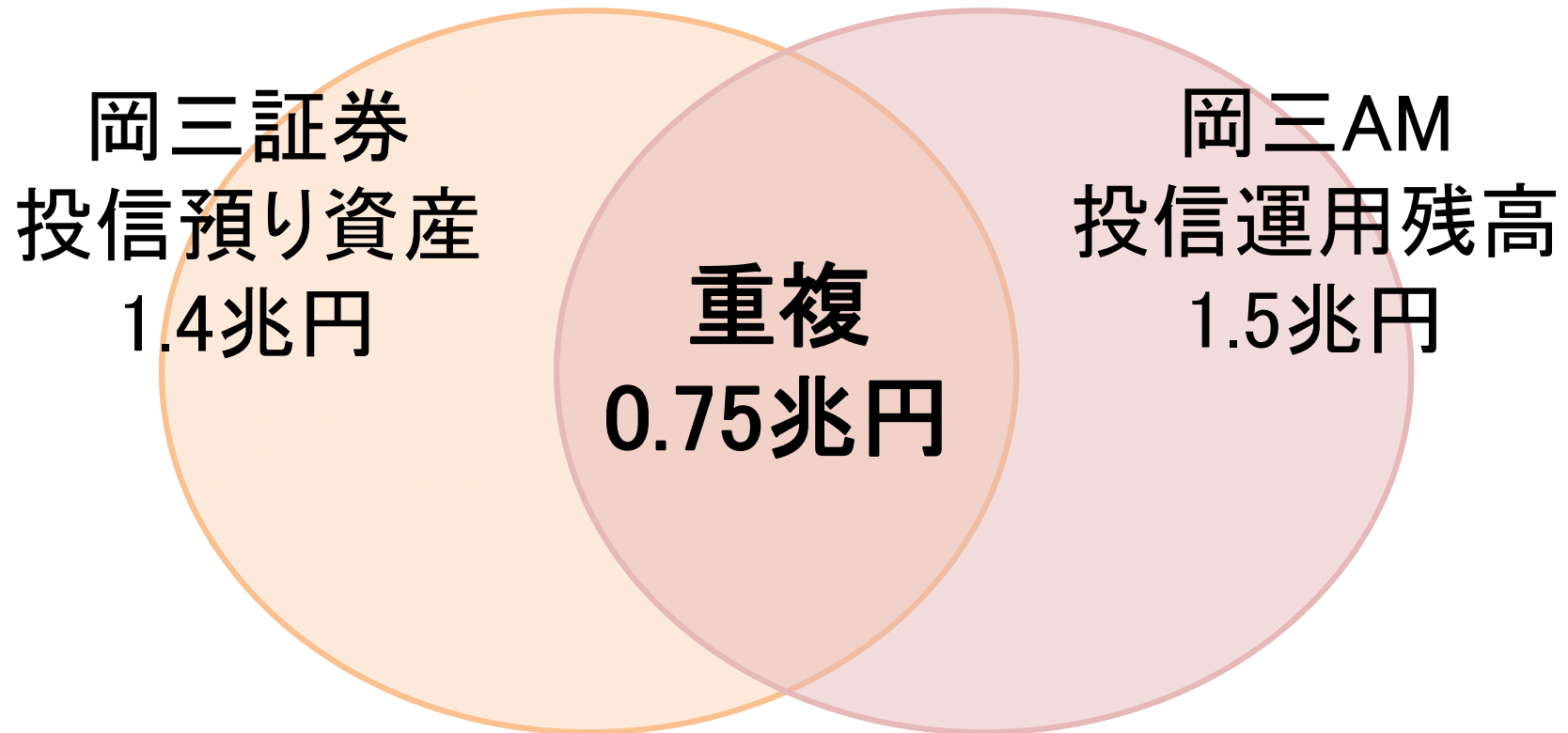
成長余力は
非常に大きい

何を
すべきか？

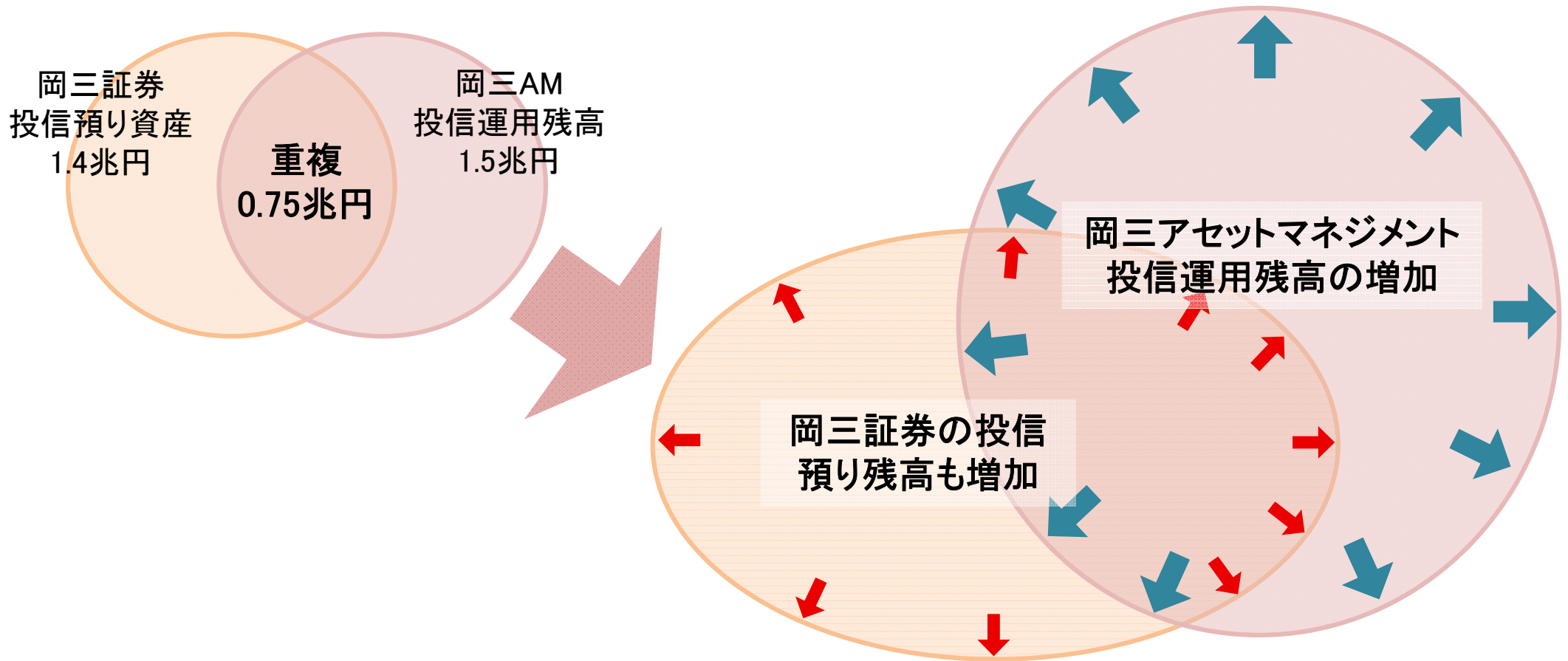
①アセットマネジメントビジネスの強化

②デジタルイノベーション対応と新ビジネスモデル創造

アセットマネジメントビジネス①



アセットマネジメントビジネス②



アセットマネジメントビジネス③

商品力
向上



グループ内
シナジー

グループ内シナジー イメージ

たとえば・・・ 岡三証券において投信預り資産が増加すると？

	岡三AM以外の 投信が増加	岡三AMの 投信が増加
岡三証券の信託報酬	○	○
岡三AMの運用報酬	—	○
合計	○	○ ○

アセットマネジメントビジネス④

商品力
向上



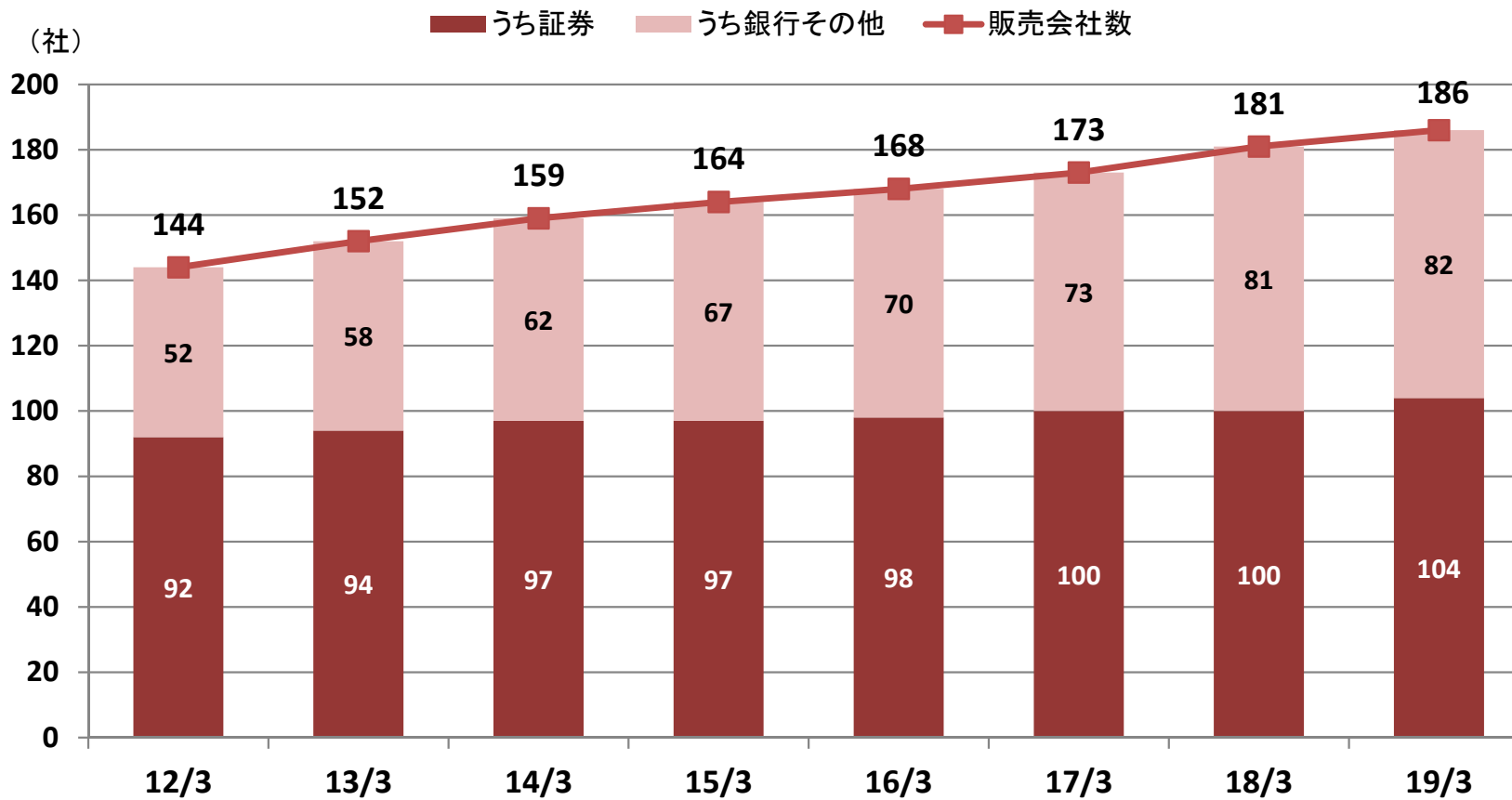
グループ内
シナジー



販路拡大

アセットマネジメントビジネス⑤

販売会社数の推移



地銀は62行



全地銀の6割を
カバー

あわせて 財務戦略

商品力
向上



グループ内
シナジー



販路拡大

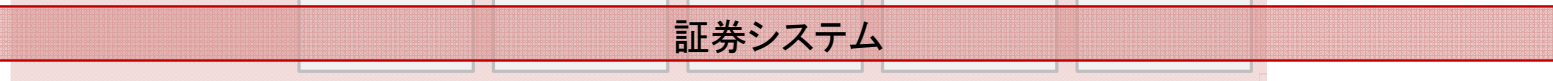
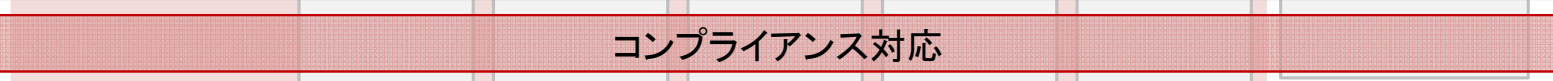
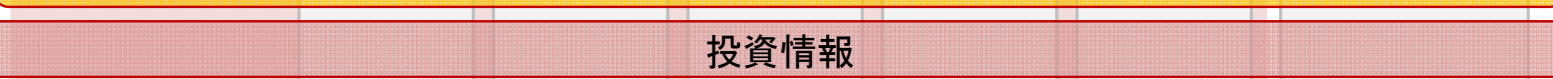
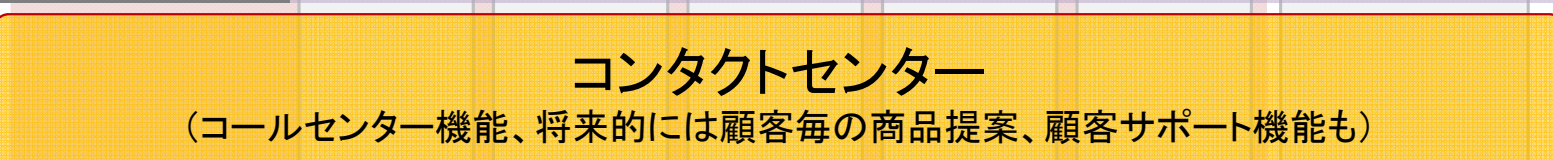
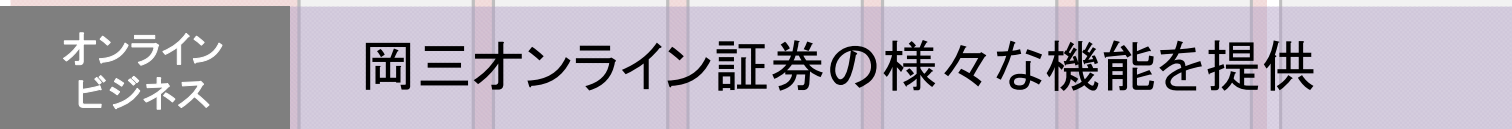
岡三アセットマネジメントの持株比率引き上げ



連結最終利益への寄与度UP

デジタルイノベーション対応と新ビジネスモデル創造

グループ全体の強化(グループ内外連携)



各リソースを
プラットフォーム化し
共用

コンタクトセンターの将来像

- ✓ オンラインやコンタクトセンターの強化・活用により、従来の営業のあり方に変化をもたらす
- ✓ 顧客毎の特性などを解析し、顧客毎の商品提案や顧客・営業員サポート

コンタクトセンター

- SNS情報をAIで解析・分析して投資情報を提案
 - ロボアドバイザーサービス提供
 - DMP(データマネジメントプラットフォーム)の導入
- ✓ AIを活用したポートフォリオ提案の検討
(岡三の人生設計)

取り組み実績

取り組み実績の一例

- DMP(データマネジメントプラットフォーム)の導入

⇒レコメンド情報(岡三オンライン証券)お客さまに毎朝送付しているダイレクトメールに、お客さまの取引データを元にAIが分析したそのお客さまだけのおススメ銘柄を掲載



順位	銘柄コード 銘柄名	現在値 最終更新	前日比	
1	7741 HOYA*	7,722円 5/14 15:00	-0.03%	現物買い 信用新規買い 信用新規売り
2	4397 M-チームスピリット*	6,120円 5/14 15:00	-1.77%	現物買い 信用新規買い 信用新規売り
3	4901 富士フィルム*	5,188円 5/14 15:00	-1.18%	現物買い 信用新規買い 信用新規売り
4	6141 DMG森精機*	1,460円 5/14 15:00	-2.08%	現物買い 信用新規買い 信用新規売り
5	4739 CTC*	2,666円 5/14 15:00	-1.44%	現物買い 信用新規買い 信用新規売り

総括

✓ 商品・技術のイノベーションが加速するなかで…

1. これからも 商品力・情報力・提案力の強化

2. これからは デジタイゼーション対応と新ビジネスモデル創造

3. 岡三証券グループのブランド力を高め、企業価値の向上

1

2019年3月期の業績について

2

グループ経営戦略

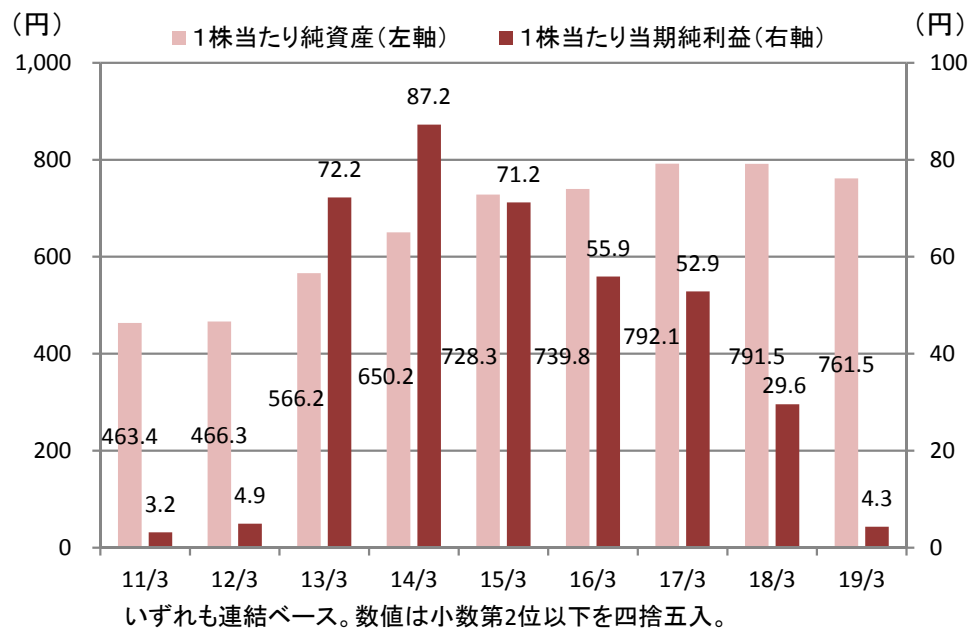
3

参考 岡三証券グループの概要

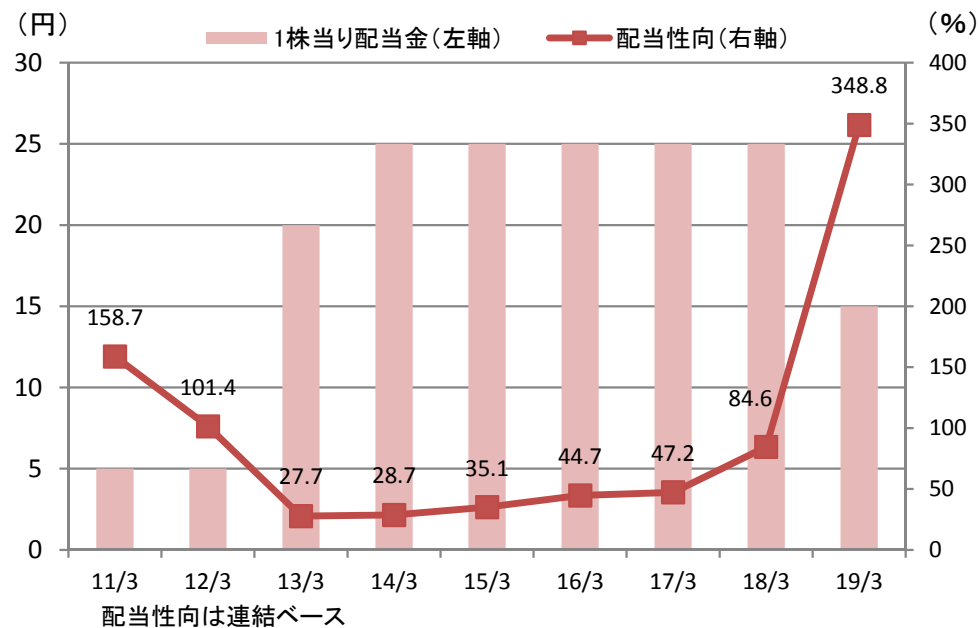
株主還元(安定配当)

✓ 安定的な配当の維持・継続を勘案し、業績に応じた配分を実施

1株当たり利益および純資産の推移



配当金および配当性向の推移



中期経営計画の概要

経営哲学：お客さま大事

投資アドバイスのプロフェッショナルとして、お客さま一人ひとりに合ったサービスをご提供し、お客さまにとって最善の利益を追求するという経営哲学は不変です。

社会的使命：3つの宣言

お客さまの「資産形成」「資産運用」から「資産管理」に至るニーズにお応えするという社会的使命に資することで成長を続けてまいります。

<ステークホルダーへの3つの宣言>

(1)お客さまに対して

我々は、お客さまの利益に資するため、投資アドバイスのプロフェッショナル集団となります。

(2)社員に対して

我々は、社員の働きがいに資するため、より一層「誇り」を持てる会社となります。

(3)株主に対して

我々は、株主の期待に応えるため、企業価値を高めます。

目標

定性目標

グループ力強化6施策

1. お客さま大事の経営
2. グループ内連携
3. グループ外連携
4. ブランド戦略
5. 人材、働きがい
6. FinTech対応

定量目標

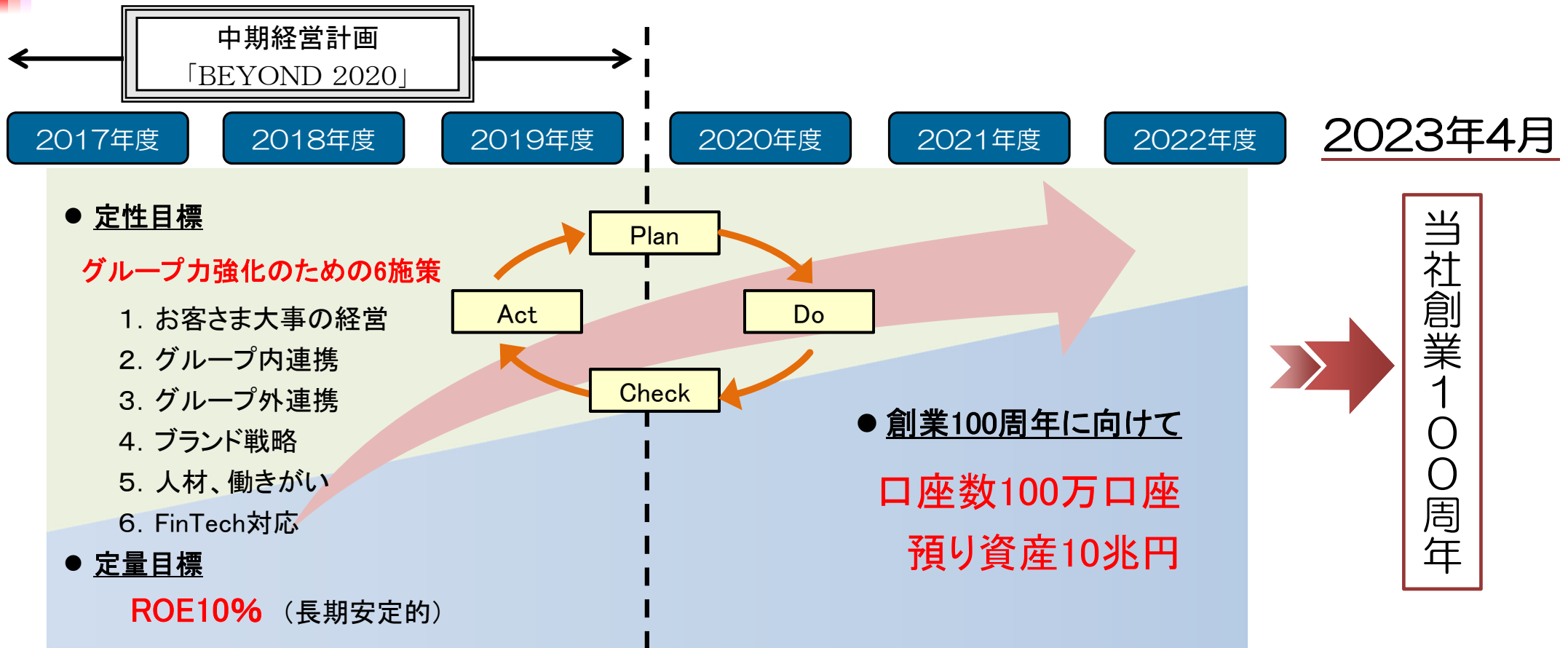
ROE 10%

会社成長とともに、長期安定的な目標としてROE 10%を達成します。

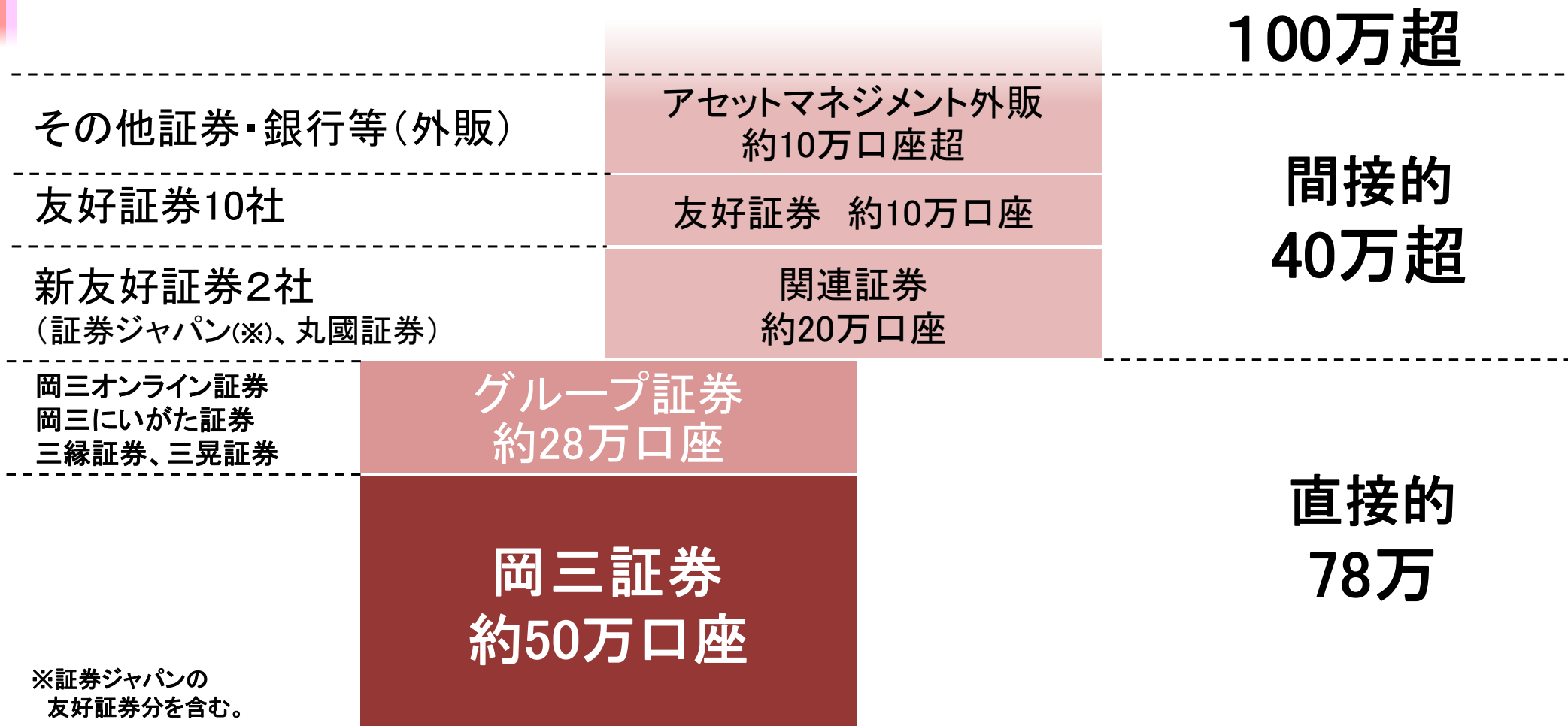
創業100周年に向けて

創業100周年までの早期にグループ全体で「100万口座」、預り資産「10兆円」の達成を目指します。

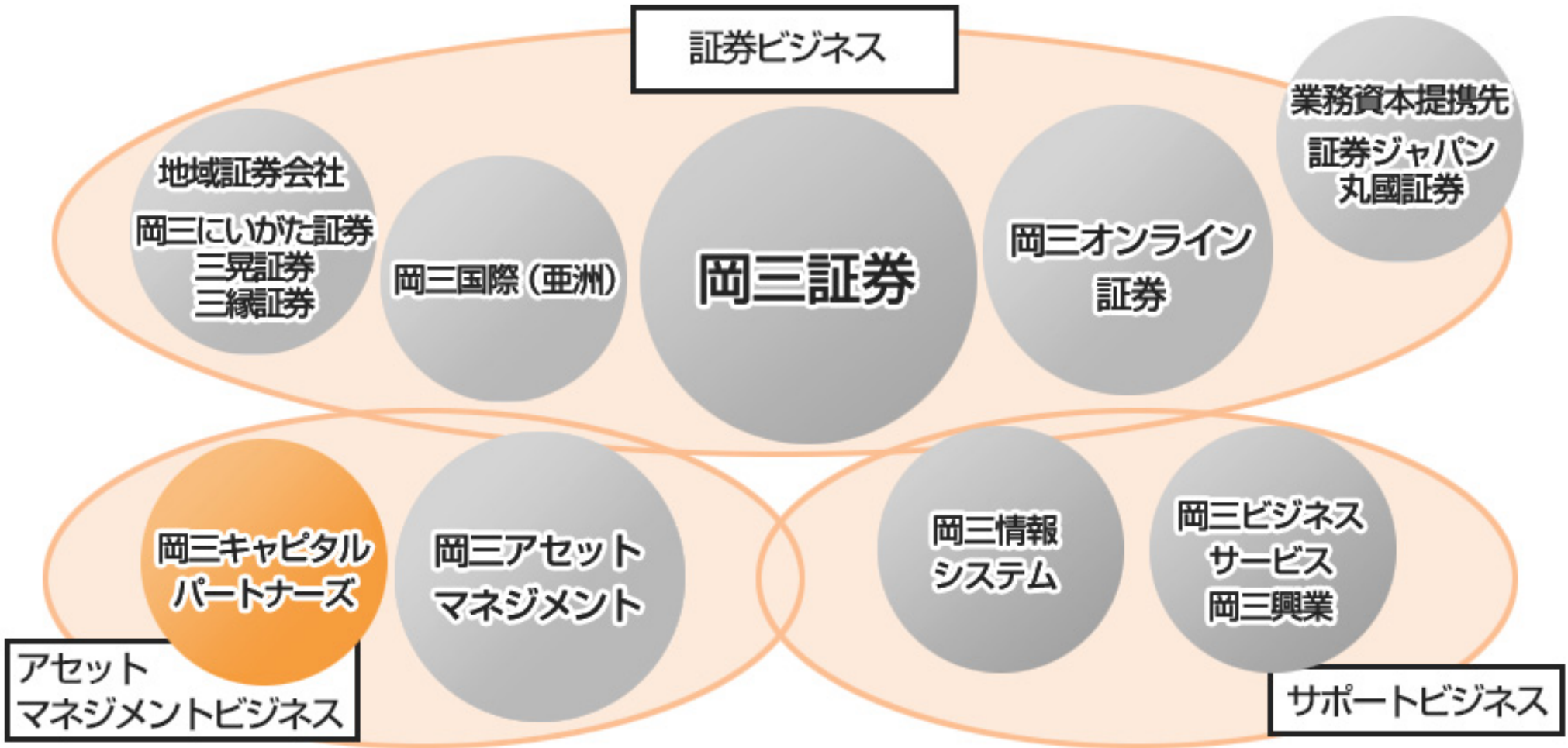
創業100周年までのビジョン



(ご参考) 100万人へのアプローチ



当社グループの事業会社



数字で見る岡三証券グループ

預り資産

5.1兆円

口座数

78.1万口座

グループ拠点数

92拠点
(海外拠点含む)



投信販売会社数

186社

アライアンス体制

21社

システム提供先

14社

友好証券・新友好証券
含む拠点数

145拠点

当社グループのポジション(19/3期)

岡三証券

順位	営業収益(億円)		預り資産(兆円)	
	順位	金額	順位	金額
1	野村	5,750	野村	114.7
2	SMBC日興	3,446	大和	66.3
3	大和	3,323	SMBC日興	60.2
4	みずほ	3,411	みずほ	45.6
5	三菱UFJMS	2,279	三菱UFJMS	38.6
6	東海東京	559	岡三	4.5
7	岡三	518	東海東京	4.5

※野村証券の預り資産は営業部門の値

※三菱UFJMS証券の預り資産は、三菱UFJPB証券との合算値

岡三オンライン証券

順位	口座数(万口座)	
	順位	金額
1	SBI	463.1
2	楽天	320.5
3	マネックス	181.8
4	松井	118.4
5	カブドットコム	111.8
6	GMOクリック	38.6
7	岡三オンライン	21.4

岡三アセットマネジメント

[公募投信残高]

順位	運用会社	19/3末	
		運用残高(兆円)	シェア
1	野村	31.24	27.6%
2	大和	16.01	14.2%
3	日興	14.71	13.0%
4	三菱UFJ国際	10.45	9.2%
5	AM-One	8.67	7.7%
6	三井住友TA	3.98	3.5%
7	三井住友	3.19	2.8%
8	フィデリティ	2.50	2.2%
9	ニッセイ	2.12	1.9%
10	大和住銀	1.92	1.7%
11	BRJ	1.60	1.4%
12	ゴールドマン	1.32	1.2%
13	東京海上	1.30	1.1%
14	ピクテ	1.26	1.1%
15	アムンディ	1.12	1.0%
16	岡三	1.05	0.9%

岡三証券グループのリソース

✓ 証券ビジネスに必要な機能を全て独自で保有

保有機能別証券会社比較

	対面証券	ネット専門証券	資産運用 子会社	事務子会社	コール センター	システム
岡三証券G	○	○	○	○	○	○
A社	○	×	○	○	○	×
B社	○	×	○	○	○	○
C社	○	×	○	○	○	○
D社	○	×	○	○	○	○
E社	○	○	○	○	○	○
F社	○	×	○	○	○	×
G社	△	○	○	○	○	○
H社	×	○	○	×	○	×

問合せ先：株式会社岡三証券グループ
広報IR部

住 所：〒103-0022
東京都中央区日本橋室町2-2-1

T E L：03-3275-8248（広報直通）

U R L：<http://www.okasan.jp>